

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

農学部では、その教育理念に基づき、食料、環境、資源及び生命に関する高度な専門性を修得し、総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

植物生産環境科学科

農学部植物生産環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般に関する科目
 - (2) 自然循環機能を活かした環境保全型・調和型農業に関する科目
 - (3) 農作物の栽培環境の改善、品種改良、成分分析、病害虫の診断・防除など、植物生産に関する科目
 - (4) 農業の施設化・機械化や労働環境の改善、農地整備、農業経営・経済など、生産環境に関する科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

森林緑地環境科学科

農学部森林緑地環境科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や問題解決能力を修得するための科目
 - (2) 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目
 - (3) 樹木・菌類、非生物材料等の特性に関する基礎的・応用的知識を修得するための科目
 - (4) 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力を修得するための科目
 - (5) 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

応用生物科学科

農学部応用生物科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 化学、生物、数学を主とする自然科学および情報技術に関する基礎的知識を修得するための科目。
 - (2) 応用生物科学に関する専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力を修得するための科目。
 - (3) 社会貢献を意識し、応用生物科学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解すると共に、技術者の社会的責任を理解するための科目。
 - (4) 課題解決のための筋道をデザインし、与えられた制約の下で自立的・計画的に仕事を進め、期限内にまとめる能力を修得するための科目。
 - (5) 応用生物科学分野における課題に関する情報収集力、記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を修得するための科目
 - (6) 応用生物科学分野に関連する社会の変化に柔軟に対応するために、継続的、自発的に学ぶ学習態度を修得するための科目
 - (7) チームで仕事をすることの重要性を理解し、適切に行動できる能力を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

海洋生物環境学科

農学部海洋生物環境学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 情報収集能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を修得するための科目。
 - (2) 水域生物の生理、生態、遺伝、分類、資源利用、水族の疾病、水域環境の保全に関する科目。
 - (3) フィールド体験や実験実習を通して、海洋をはじめとした生物の生息水域における生物資源の生産、利用、管理および環境の保全に関する科目。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

畜産草地科学科

農学部畜産草地科学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 家畜の合理的な生産や福祉に関する知識を修得するための科目
 - (2) 飼料となりうる資源の開発やその活用に関する知識を修得するための科目
 - (3) 草地・放牧の適切な管理などに関する知識を修得するための科目
 - (4) 家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生、畜産食品製造などに関する知識を修得するための科目
 - (5) その他、畜産業に関する実践的知識・技能を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

獣医学科

農学部獣医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
3. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
4. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門分野に関わる倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 実践的な能力を深化させるために、共用試験に合格することをもって受講できる参加型臨床科目を設置する。
9. 進路を見据えて、より高度な専門的な知識を取得するために、アドバンス科目を設置する。
10. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
11. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
12. 獣医師国家試験の受験資格を修得できるように、6年間を通じ以下の内容を含む授業科目を体系的に配置する。
 - (1) 動物の体のしくみや機能に関する知識や技能を修得するための科目
 - (2) 動物の病気のなりたちや感染症に関する知識や技能を修得するための科目
 - (3) 公衆衛生ならびに動物の衛生管理や福祉に関する知識と技能を修得するための科目
 - (4) 動物の繁殖や栄養学に関する知識と技能を修得するための科目
 - (5) 病気の診断・治療・予防法に関する知識と技能を修得するための科目

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 基礎教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

グローバル人材育成学部教育プログラム

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、宮崎大学と海外協力大学が連携して体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、人文科学系、社会科学系、自然科学系、語学系、その他からなる基礎教育科目群を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力を養成するため、本プログラムにおける基本言語は英語とする。
5. 専門性を持って地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、生物資源とバイオテクノロジーを主体とする必修専門科目群を設置する。
6. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 - (1) 生物資源に関する専門科目。
 - (2) バイオテクノロジーに関する専門科目。
 - (3) 卒業論文や特別実験等の研究室単位で実施する科目。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明記し、周知する。
2. 主体的に考える力を養うために、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど教育・指導方法を工夫する。
3. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。